

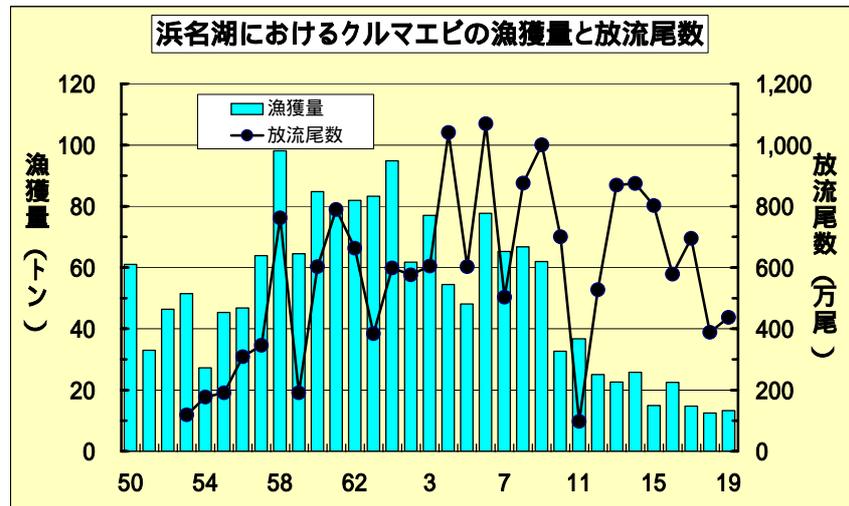
資源添加率向上技術開発研究(クルマエビ)

(予算区分 県単独 研究期間 平成20～22年度)

担当：浜名湖分場

【研究の背景とねらい】

- ・ 浜名湖におけるクルマエビは最も重要な漁獲物の一つとして位置づけられています。そのため、昭和50年代前半からクルマエビの栽培漁業が行われており、平成4年度からは浜名漁協の組合単独事業と指定法人(県漁業振興基金)が温水利用研究センターの種苗を使って行なう実証事業の2事業によって進められ、年間平均約1,500万尾を受け入れ、約730万尾の稚エビを放流しています。その結果、平均年間漁獲量は放流前の50トから66トに増加しました。
- ・ しかし、近年漁獲量は急減し、特に平成10年以降は20ト前後にまで低迷しています。
- ・ この原因は、外海水の流入量増大に起因する浜名湖の環境変化が資源に影響を与えたものと推察されます。
- ・ そこで本研究では、現状の環境変化に合わせた放流場所や適正放流サイズ、放流時期等の検討、さらに食害魚駆除や底質等の改善などを行い、より効率的な資源の増大を目指します。



【期待される効果】

クルマエビの漁獲量が増大し、漁業者の漁業収入の増大と安定が図られると共に、浜名湖の特産の一つとしてブランド化が期待されます。

【年次計画】

1 放流方法の改善(平成20～22年度)

従来の放流サイズよりもより大型の種苗を用いた放流や放流時期の変更等を行い、その効果について検討します。

2 放流場所の改善(平成20～22年度)

中間育成場の害敵駆除やアオサ除去などの底質改善を行い、生残率の向上について検討します。

(作成 平成20年4月)